

厚生労働科学研究費補助金
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業
子宮頸がんワクチン接種後に生じた症状に関する治療法の確立と情報提供についての研究
平成 29 年度 分担研究報告書

子宮頸がんワクチン接種後の体調不良：2017 年度当科受診例のまとめ

研究分担者 楠 進 近畿大学医学部神経内科 教授

研究要旨

子宮頸がんワクチン接種後に体調不良をきたした症例について、2017年度における当科での診療経験をまとめた。子宮頸がんワクチン接種後の体調不良を訴える症例の症状は多様であり、ワクチン接種後から症状出現までの期間も様々である。またワクチン接種以前から精神的・身体的体調不良のみられる場合もあった。子宮頸がんワクチン接種と体調不良の関連については、症例を蓄積するとともに、疫学的検討を含めて詳細な検討を行うことが必要である。

A. 研究目的

子宮頸がんワクチン接種後の体調不良について、2017年度における当科の経験をまとめる。

B. 研究方法

子宮頸がんワクチン接種後に体調不良をきたし、2017年4月～2018年2月に当科に紹介された3例について、外来カルテをしらべて臨床的特徴を検討した。

(倫理面への配慮)

通常の診療の記録を後方視的に検討したものであり、倫理面の問題は無いと判断した。個人情報保護には特段の配慮を行った。

C. 研究結果

患者は3名の女性で、年齢は20歳、17歳、27歳(それぞれ症例1, 2, 3) 症状出現は子宮頸がんワクチン接種後6ヶ月、2年、5年である。症例1は、下肢優位の四肢筋力低下であり、Babinski徴候が陽性であるが、spasticityや膀胱直腸障害はみられず、無意識の動作は比較的スムーズに可能であった。また仰臥位・腹臥位ともに、左右どちらの下肢も持ち上げられないが、対側の下肢の下向きの力は十分に認められた。言語療法士の学校に通っており、精神科受診で感情失禁や退行現象などを指摘されたこともある。頭部や脊髄のMRIでは明らかな所見なし。症例2は、左耳の難聴と左視野の狭窄があり、身体各所の痛みあり。神経学的診察では特記すべき所見はみられず、頭部MRIでも特記すべき異常なし。針治療で視野障害が改善すること。また視野障害出現前にリストカット

があり精神科受診している。症例3は、9か月前に風邪をひいた後の眼球運動障害と嚥下障害および頸部および四肢筋力低下があったとのことで当科紹介された。13歳頃から精神科受診し、適応障害、解離性障害などと診断されて入退院を繰り返していた。22歳時には精神科入院時に全身が硬直して歩けなくなったことがあり、上記発症はその後のリハビリ中のできごとであった。当科受診時に眼球運動障害はみられず、頸部筋力低下および四肢の軽度の筋力低下がみられた。

D. 考察

症例1は何らかの器質的障害が存在する可能性は否定できないが、心理的要因の可能性も考えられた。その他の2症例はいずれも精神科的要因が強いと考えられた。

E. 結論

子宮頸がんワクチン接種後の体調不良には、さまざまな要因が考えられる。疫学的検討を含めた今後の詳細な検討が必要である。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし